

令和8年度 第1回倉沢人形歌舞伎調査委員会

1 開催日時

令和8年6月27(土) 午後2時～午後4時15分

2 開催場所

花巻市東和総合支所1階 第1会議室

3 出席者

(1) 委員 8名

大谷津早苗 委員 (昭和女子大学名誉教授)

中村 良幸 委員 (花巻市文化財保護審議会委員)

木戸口俊子 委員 (岩手県立盛岡農業高等学校教諭)

中嶋奈津子 委員 (花巻市文化財保護審議会委員)

菊池 峰雄 委員 (倉沢人形歌舞伎保存会代表)

下林 育夫 委員 (倉沢人形歌舞伎保存会事務局長)

松橋 香澄 委員 (花巻市博物館学芸係主査)

寺田真由美 委員 (玉川大学非常勤講師)

(2) オブザーバー 2名

橋本かおる (文化庁参事官(伝統文化・生活文化担当)付 文化財調査官(芸能部門))

長屋敷淳史 (岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化財課文化財担当上席文化財専門員)

(3) 事務局 4名

文化財課 佐藤恒課長、佐藤幸泰課長補佐、小林禎子係長、里舘いづみ主査

(4) 傍聴者 なし

(5) 報道関係 なし

4 内容

(1) 報告事項

ア 音楽専門調査委員の選任について

イ 令和8年度調査事業計画について

ウ これまでの経過および進捗状況について

(2) 議事事項

ア 調査報告書目次(案)及び役割分担について

イ 調査の進め方およびスケジュールについて

ウ その他

5 議事録

(1) 開会（進行：佐藤課長補佐）

〔新たに調査委員会委員となった寺田真由美委員に辞令交付〕

〔倉沢人形歌舞伎調査委員会成立報告 委員8名中8名出席〕

(佐藤課長補佐)

ただいまから令和8年度第1回倉沢人形歌舞伎調査委員会を開催いたします。
文化財課長の佐藤よりご挨拶を申し上げます。

(佐藤課長)

本日は皆様お忙しい中、倉沢人形歌舞伎調査委員会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また皆様には、日頃より大変お世話になっておりますことに改めて感謝を申し上げます。

私は4月から文化財課の課長となります佐藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。3月までは防災の担当をしておりまして、昨日の地震ですとか、大雨が降ったりするとバタバタする職場にいました。3年前までは博物館の方におりましたので、中村委員は元上司ですし、松橋委員は元部下ということになります。どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年の11月に設置されました本委員会でございますけれども、かねてより音楽を専門とした調査員が必要ということから、今回より寺田真由美先生に委員としてご参加いただくということになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

また私ども事務局でございますけれども、課長補佐は課内異動ということではあります。4名中3名が人事異動で交代ということになりました。不慣れな点等もあるかと思いますがどうぞよろしくお願いしたいと思います。

本日は、令和8年度の第1回調査委員会ということで、これまでの経過、それから進捗状況について、まずはご報告をさせていただきまして、その後、今後の調査の進め方やスケジュールについてご協議させていただくこととしております。委員の皆様にはそれぞれご専門の見地からのみならず多様な観点から、忌憚のないご意見をいただきまして、調査事業を進めてまいりたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(佐藤課長補佐)

続きまして、本調査委員会委員長の大谷津先生からご挨拶をお願いいたします。

(大谷津委員長)

着席のまま失礼いたします。大谷津でございます。どうもお久しぶりでございます。

いよいよ本格的な活動に入る国庫補助を頂戴して、この3年間で報告書を完成するという、より現実的に具体的に進めていかなくてはならないという状況にきておりまして身の引き締まる思いでございます。

報告書には2つ、私は重きを置きたいところがありまして、1つは今後の伝承に向けて、5年10年20年30年経ったときに回顧録になるように、この時点で記録をしておくことで、いろいろなことが残るような、伝承にとってプラスになるような報告書にしたいということが1つであります。振り返ったときにあのときはこうやっていたのだということがわかるようにしたいということが一つでございます。

もう1つは、次の研究の資料になるような1つの大きなステップになるようなことを表しておきたいです。まず研究のためには資料が必要でございますので、資料をたくさん集めて、公にして、できる限りこの時点で分かる研究を示し、そして今後次に繋がるような道筋をつけていきたいということで、この2つの意義を持たせた報告書にしたいということを考えております。

資料収集や解説など、先生方にはご苦勞をおかけしておりますが、着実に少しずつ新たな面が見えてきているところが大きな喜びでございます。特に、地元にいらっしゃる中村先生、中嶋先生、木戸口先生にはお教えいただくことが多いかと思っておりますけれどもどうぞよろしくお願いいたします。引き続きご面倒おかけすることもありますけれどもよろしくお願いしたいと思います。以上でございます。

〔委員・オブザーバー・事務局紹介〕

(佐藤課長補佐)

それでは協議の進行につきましては、本調査委員会設置要綱第4条第2項の定めによりまして、委員長をお願いいたします。大谷津委員長、進行よろしくをお願いいたします。

(2) 報告事項

ア 音楽専門調査委員の選任について

(大谷津委員長)

それでは報告事項に入りたいと思います。本日は報告事項3件と協議事項3件がございます。初めに報告事項、(1) 音楽専門調査委員の選任について事務局より説明をお願いいたします。

(小林係長)

事務局の小林と申します。よろしく申し上げます。

それでは、報告事項の(1) 音楽専門調査委員の選任についてご説明いたします。先

ほど辞令交付と課長からも説明がありましたけれども、昨年度の調査委員会の中で人形歌舞伎の義太夫等の音楽専門の調査委員が必要だというご意見をいただいております、大谷津先生からご紹介いただきました寺田真由美先生に調査委員会に加わっていただくことといたしました。任期は、重複しますけれども、令和8年の6月1日から令和10年5月31日までの2年間となります。どうぞよろしくお願いいたします。

(大谷津委員長)

ありがとうございました。この件について何かご質問ご意見等ございますでしょうか。任期は、伸びていくという形でよいですか。

(小林係長)

設置要綱上の任期が2年となっておりますので、他の委員さんと任期がずれてしまう形にはなりますが、一応この国の事業が令和10年度までとなっておりますので、そこに合わせて帳尻が合うように任期を更新していくように考えておりました。

(大谷津委員長)

わかりました、ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。なければ次に進みます。

イ 令和8年度調査事業計画についておよび、これまでの経過および進捗状況について

(大谷津委員長)

(2) 令和8年度調査事業計画についておよび(3) これまでの経過および進捗状況について事務局からまとめて説明をお願いいたします。

(小林係長)

それでは、次第のついている資料から説明させていただきます。こちらはおさらいになりますけれども、今年から文化庁の事業を活用した調査事業となっております、文化庁に提出した資料をつけさせていただきます。

資料の3ページになります。平成31年の3月に記録作成等の措置を講ずべき無形民俗文化財に倉沢人形歌舞伎が選択されておまして、現在の調査事業を行っているということになります。

4ページに調査の計画が書いてありますが、事業年度が令和6年から令和10年度の予定で、令和6年と7年は市の単独で調査事業を行い、令和8・9・10と国の事業を活用した調査を行って、令和10年度に報告書の刊行を目指すというような流れになっております。

5 ページは、令和 8 年度の調査事業計画を記載しています。調査委員会議や記録の調査を具体的に行っていく予定になっております。

6 ページは、令和 10 年度までのスケジュールを書いてあります。こちらは文化庁に出したもののから若干修正しております。どこを修正したかというところ調査委員会の開催のところですが、第 4 回が 6 月で音楽担当の調査委員に就任していただいたというところでは、それと下の方の報告書というところで、目次・報告書の校正の検討ですけれども、今年の春まででしたが、まだこれから進んでいくうえで、目次等々変わっていく部分もありますので、今年の秋ごろまでにしました。あと原稿の提出等に関しましては令和 10 年度の秋ぐらいかなということで、こちらの期限を少し変更したところであります。

7 ページから 9 ページは予算の中身になっておりますが、確認としてつけておりますので、お目通しいただければと思います。

続きまして、報告事項の（3）これまでの経過および進捗状況についてを説明させていただきます。

資料は 10 ページになります。資料 No. 2 では、令和 6 年から 8 年度にかけて調査を行ってきた中身を書いています。6 年 6 月 20 日に調査委員会が設置され、11 月 15 日が 1 回目の調査委員会、そして 11 月 23 日に定期公演が行われまして、調査委員の皆さんにも来ていただいております。詳細の調査については、令和 7 年 7 月に第 2 回目の調査委員会が開催されましたあと、8 月 8 日に、中村副委員長と木戸口委員に調査をしていただき、資料編に調査報告書をつけております。このときに古文書類をだいぶ収集しまして、7 年度は、これらの撮影作業を事務局の方で行いました。

それから 11 月 23 日の定期公演に大谷津委員長に来ていただき、その後 11 月 26 日に調査③で、事務局が、以前人形歌舞伎をやっていた菅野一夫さんのところにお伺いしました。資料をお借りし、お話を聞いてきましたが、このとき録音を行っておらず、事務局だけで行ったもので調査に不足部分があったため、今日令和 8 年 6 月 27 日午前中に中村副委員長、木戸口委員、中嶋委員で菅野さんのお宅にお伺いし、再度お話を伺ってきたということになります。

そして、去年 12 月 16 日に 3 回目の調査委員会を開催しました。その後、撮影した資料のデータを DVD に保存し、令和 8 年 3 月末に調査員の皆さんにお送りしたところであります。そして、こちらの古文書類の解読、翻刻が必要だということから今年度に入りまして、令和 8 年 4 月 17 日に岩手古文書学会の皆さんと打ち合わせをしまして、古文書の日記の一部について翻刻作業をお願いいたしました。「倉沢人形歌舞伎の変遷」という資料の 21 ページが翻刻をお願いしたデータになります。DVD の 1－1 から 1－9 が、岩手古文書学会の皆さんをお願いしたところです。併せて、古文書関係で申しますと、台本は、寺田先生にみていただき、ここを翻刻して欲しいと言われた資料がありましたので、そちらについては紫波の古文書教室の皆さんをお願いいたしました。日付でいうと 6 月 5 日に、資料をお送りしています。こちらは資料 23 ページが、台本の一覧にな

っておりまして、寺田先生が解説してくださって説明を入れてくださったので、それをつけております。

それから、大福帳はまだどこにも頼んでない状況でしたが、中村副委員長が、この度だいぶ読んでくださって、当日の資料としてつけておりますので、後で補足説明をそれぞれお願いできればと考えております。

この他、今年の動きとしては、4月24日に中村副委員長と事務局で人形歌舞伎の伝承館にお邪魔し、菊池委員と下林委員に対応いただきましたが、こういった人形とか道具類があるかを確認させていただきました。調査報告書資料16ページ以降に写真を撮ってきたものを載せております。人間の歌舞伎の着物類も相当数ありましたし、人形、カツラですとか小道具類が大変多く保存されているという状況を確認しましたし、今後、着物類とか、そういったものもきちっと撮影して記録していく材料を確認してきたところ です。

あとは、本日の聞き取り調査と、今日も夜、毎週土曜日に練習されるので、それを調査させていただいて、明日の倉沢人形歌舞伎公演を見させていただくところまでが決まっているところとなっています。以上です。

(大谷津委員長)

ご説明ありがとうございました。一番大事なところは、事業計画とそう変わってないと思うのですが、資料の解説が進んできていて、大福帳を中村先生がほぼ見てくださって、一つ一つ翻刻の依頼もしているわけですが、多分依頼先は一つ一つ全部丁寧に翻刻してくれると思います。こちらで欲しいところは、まず芝居関係ということで、中村先生が全部見てくださって抜き出してくださっております。

また、寺田先生にも、台本の資料のDVDを見ていただいて、古文書解説の方に依頼している分と、寺田先生が見てくださって、注目すべき点とかを抽出してくださっているところ です。

まず全体を把握することが大事なので、そういうやり方でとにかく膨大な量ですから、みんなでやっていかないといけないという現状です。

今回、進めてくださっているところをご報告いただけるということですので、よろしくお願いいたします。まず、中村先生どうぞよろしくお願いいたします。頂戴している資料を拝見しながら伺います。

(中村副委員長)

DVDでは日記と大福帳と二つに分けていましたが、よく見ると同じもので同じ日記です。大福帳と書いていますが、ほぼ日記に収支決算が書いてあるというだけの話でしたので、とりあえず大福帳を読んで拾ってみました。芝居関係のものだけ拾いましたので、これを見ますと、ほぼ春先の4月、5月ぐらいまでは公演をやることがあったようです。

けど、夏場にはほとんどやっておらず、芝居の稽古とか、そういうのを主にやって、秋口の9月10月頃からまた芝居公演するということでやっています。

ただ、ちょっとわからないのは、人形芝居をやったのか、いわゆる歌舞伎の芝居をやったのかが明確に書かれてないところがたくさんありまして、後半の30年代になってくると、しっかり「人形芝居」ときっちり書いていますのでわかりますが、その前は芝居なのか、人形なのかがよくわからない記述がたくさんありました。一番遠くは、この中では山形県の鶴岡周辺まで行っています。それから海岸部では石巻辺りに行っていますが、一番多いのは江刺、梁川、それから金ヶ崎、一関その周辺が結構多いです。

今日、菅野一夫さんにお話を聞きましたが、梁川まで歩いて1時間ぐらいで行けるということなので、やはり歩いて行っていたのかなということですが、この人形芝居をやった場合に、後半の方はどうも道具箱をちゃんと作って、最初に送っているのわかりますが、最初の頃の「芝居」って書いているのは、ほとんど荷物を送った形跡がなくて、常次郎さん1人で行っているような気配があるので、「芝居」なのかという気がします。その辺は、日記と書いてあるものはまだ読んでいませんので、そちらを見てから判断できるかと思いますが、結構幅広く歩いていると思います。

今日は、菅野一夫さんからお話を聞いて、登場する芝居の人たちのメンバーの人間関係をちょっと聞いてきました。常次郎さんの孫とか、それから芳治さんの奥さんとか、その息子さんとかがこれまでよく分からなかったのですが、今日でだいぶ分かりました。

あと聞きたかったのは、屋号がいっぱい出てくるので、それを後で峰雄さんと下林さんに聞いて、チェックすればよりわかるのかと思います。屋号の誰それとか、屋号の頭文字だけとか。さっきも「立石有（あり）」って書いていますが、「立石ゆう」って誰かと思ったら「立石」っていう屋号の有戸さんっていう方だったということがわかりました。そういうのがいっぱいあるので、後で聞いて、それできっちりまとめようかと思っています。

ただ活動は、ご覧になってわかると思いますが、かなり詳しく書いていますので、すごくよい資料だと思います。ですから、それをどういうふうにまとめるかという話になります。日記のほうは別な人たちに頼んでいるということですが、試しに私が大正6年のものを1枚読んでみましたが、同じ書き方ですので、多分読むことは簡単というか、そんな時間がかからずにできるという気はします。これを見ますと、大正のほうがおそらく活発にやっていた気はしますので、報告書にこの辺を抜粋して載せたら、すごくよいと思います。常次郎さん時代の活動記録がわかるのではないかと思います。以上です。

(大谷津委員長)

ありがとうございます。少し伺っただけでも本当によくわかるというか、よい資料だなと思います。活動範囲もそうですし、人間関係であるとか演目もわかりますので、

あとは、その「歌舞伎」か「人形」かというところの判断がなかなか難しいところで、両方やっていたがゆえに、どれがそれに当たるのかというところは本当によく検討しなくちゃいけないことだとは思いますが。でも、間違いなく日記と大福帳は、今回の報告書のメインになると思いますので、もうそれなりの分量をとって、本来だと全部一言一句報告したほうがよいのかもしれませんが、今回は芝居関係ということで抽出をし、資料として載せ、また注釈をして、ここから読み取れることというのを記すことは非常に報告書の大事な部分になると思っています。中村先生には、引き続きよろしくお願ひしたいと思っています。

日記も読んでくださっているので、打ち合わせのときには残りの部分はこちらで読みますと言いましたが、先生が読んでくださっているので、両方全部読んで、総合的に見ていただいたほうが共通性であるとか、どこが違うのかとかかわかると思います。先生、よろしいですか。

古文書学会には、一応8月をめどにお願いしているので、そこで何が来るかでまた少しご相談をすることになるかと思っています。お願いしていない分に関してはぜひ大福帳と同じようなスタイルで抜き書きしていただければ、共通のことが書いてあるのか、それとも日記には別のものがあるのか、そういったこともわかりますので、ぜひ先生にはお願いします。

(中村副委員長)

日記と大福帳は同じもので、書き方は同じなので少しクセ字ではありますが別に読めないことはないです。ただ、先ほど言いましたように、人の名前とかを略語で書いたり、屋号と一緒にくっつけたりしているところがたくさんあって、それを調べないと屋号で書いたのか、名前で書いているのかがよくわからないのと、全部漢字が当て字で書いているので、「たておさん」という人の「たて」が、「建」という字に書いたり、健康の「健」で書いたり、「ただお」さんの「ただ」が「直」で書いたり「忠」で書いたり、そういったのが多くあるので、果たして同じ人なのかどうなのかがよくわからないので、あとで下林さんと峰雄さんに聞いて調べて、屋号がついているのがありますので、屋号を聞くと多分わかるのではないかと思います。ぜひお伺ひしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(大谷津委員長)

ありがとうございました。そもそも、これは常次郎さんの日記なのかどうかということも中村先生に考えて判断していただきたいと思っておりますが。

(中村副委員長)

日記とですね、普段の帳簿と一緒にあったものです。いわゆる普通の家でやっている

家計簿と日記が一緒になったもので、家族の動向まで、みんな書いてあります。娘さんやお孫さんが何をしていて、古屋敷に行って掃除したとか書いています。日記と一緒にになったかたちで、金額まできっちり入っているのが面白いです。

芝居でいくら謝礼をもらったのか、お花をいくらもらったのか、お花をもらった人の名前まで、きっちり全部書いていますので、そういう面では非常に面白いです。記録としては、こんなに真面目に書いているのはなかなかないと思います。

(大谷津委員長)

書き残してくれて本当に助かったと思いますが、本当にいろいろな読み取りができて貴重だと思いますので、先生が読まれたらまた随時情報共有していただいて、演目ですとか義太夫とか、そういった人が関わっているっていう方面だとやっぱり寺田先生も研究の資料になりますので、私達も勉強していきたいと思います。

(中村副委員長)

寺田先生に後で見ていただきたいのですが、演目が、途中「一之谷」とかきっちり書いているのはわかりますが、途中、「何々の段」とか、途中から聞いたことのない名前が出てきて、二段から三段とか書かれています、それを区切ることができなかったのも、今年の話ではないでしょうけど、後ほど、その辺を全体的に見ていただいて、演目の中のどの場面なのかっていうのを教えていただければ、こちらでもよくわからないところがたくさんありましたので、よろしくお願いします。

(寺田委員)

よろしくお願いします。私も台本を見せていただいたときに、表紙がなくて何の段かわからないというのがかなりたくさんあり、途中で内容を見ながら判断していったものがいくつもあったので、そんなような状態になっていくかなと思いますので、拝見して探せば探します。よろしくお願いいたします。

(大谷津委員長)

ありがとうございます。台本について、もう少し寺田先生のお見立てを教えていただいてもよいでしょうか？あわせて、お伺いしてから質問等を伺います。よろしくお願いします。

(寺田委員)

私が拝命してすぐに急いで見た台本ですけれども、次第というものがついた調査委員会の23ページ24ページを見ていただけますでしょうか。細かい字の小さい横の表がございします。こちらを見ていただくと、小林さんからDVDで台本50冊ほど送っていただきましたが、表紙に「絵本太閤記」とか「一之谷嫩軍記」とか書いてあるものは、それ

を載せましたけれども、表紙が欠落しているものがいくつもございまして、それを表の中の詞章より判断した外題、段場というところで書き込んであるものがございます。

後半のほうは、ページをめくり見ていただくと、「表紙なし」と書いてありますが、表紙がほとんど欠落しておりまして、詞章より判断したものがございます。今でも文楽でやっているものもありますが、あまり見たことのない演目もいくつかございまして、一番左のDVD 整理番号を見ていただくと、3-45、3-49 に関しては、外題が内容は蘇我ものと弁慶と義経ものつていうことはわかりましたが、これといった外題が一致するものがなかったので、現在調査中でございます。

それと、3-11 と 3-50 ですが、特に 3-11 「住吉本地巻之丈」というものがございまして、「本地物」というジャンル、国文学のジャンルの物語だと思われます。ただこれに関しては、おそらく義太夫ではないと思われますので、これがなぜ紛れ込んでいたのか、そして、これはどんな芸能であるのかも含めて、今、古文書教室の方に読んでいただいて、それから判断しようと考えている最中でございます。

そして 3-13、「水戸祭礼記巻之丈」というものもございまして、これは内容からおそらく講談の起きた双子のあだ討ちだと思われますが、これもなぜ台本の中に入っているのか、これをやったのかも含めて中村先生の大福日記と突き合わせて、これをやったという記録が出てくれば嬉しいことですし、やってないのであれば何か参考資料として持っていただけたのかもかもしれませんし、そのあたりも考えていきたいと思っております。

それと、私もこの台本から「歌舞伎」なのかそれとも「人形浄瑠璃」のものなのかは実は判別がつきません。いわゆる 5 行稽古本と言ったような義太夫の人たちがお稽古に使うものであれば、これは義太夫だっていうことがよくわかるので、人形浄瑠璃だなど思うのですが、それが人形の方と結びついたのか、それとも人間の歌舞伎と結びついたのかまでは判別がつかないものがいくつもありました。といいますか、ほぼついておりませんので、それを考えていきたいなと思います。以上です。

(大谷津委員長)

ありがとうございました。非常に珍しいものが混じっているというところが注目すべきところだと思います。それも日記・大福帳の演目とどう関わってくるのかというところも一つの見方になると思いますし、浄瑠璃なのか歌舞伎なのかという判断ですね。そこが台本からだとなかなかわかりにくいところがあるのかなと。また別の情報を加えないとわからないのかも知れないというところですね。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。ここまで中村先生と寺田先生のご報告に対してご質問等はございますか。

よろしいでしょうか。そうしましたら、次に本日の午前中に菅野一夫さんのお宅で聞き取り調査に行っていただきました。中村先生、中島先生、木戸口先生どんな感じだっ

たのかお伺いしたいと思います。

(木戸口委員)

今朝 10 時ぐらいに、菅野一夫さんのところに行きまして、お話を伺ってまいりました。菅野一夫さんは昭和 11 年に生まれたということで、現在 89 歳でした。左の耳があまり聞こえないということで本人は何もわからないとかそういうお話でした。ですが、聞いていくうちにだんだん思い出していただきまして、いろいろ当時のことをお話されていました。

昨年に先行して佐々木さんがお話を伺って、その記録もどこかに入っていると思いますが、それと重複する内容もございました。ただですね、本人としては、菅野常次郎さんが亡くなって、まもなく周りと同じぐらいの年齢の者と一緒にやろうと、ずっと地歌舞伎をやっていたなかったけれども、やろうという話になって、地歌舞伎をやり始めたということでした。本人は、人形芝居は少ししかやっておらずあまり上手ではなかったの、鳴り物の太鼓を叩くのを中心に一緒に参加してやっていたというお話でした。

歌舞伎の方は、かなり熱心にやられていたようでした。たくさんいろいろお話伺ったのですが、人形芝居の方はどうだったのか話をしたら、自分はちょっと不器用だったということもあるが、歌舞伎をまず最初にきちっとやって、歌舞伎の台詞であるとか動きであるとかそういったものが全てわからないと人形芝居の方はできないというふうな話をされておりました。歌舞伎をやってとても上手だった人たちが、人形芝居の方にも入ってやっていたという話で、本人一夫さん自身は、自分が不器用だったので太鼓を叩いていたとのお話でした。人間関係ですが、常次郎さんの周りの方々であるとか誰が師匠だったとか、一夫さん本人の師匠は平野正さんだったとか。そういったお話も聞きました。あとは、中村委員が持って確認し、先ほどしたお話しておりましたけれども、大福帳に載っているお名前がたくさん出てきている人たちはどういった人たちなのかということで、直接聞いたという形になります。

少し思い出話をしながらお話を伺ったりもしていましたので、今すぐにこんな感じでしたというふうには言えないところもありますが、後でまとめて、また報告させていただきたいと思います。補足を中村委員、中島委員からお願いしたいと思います。

(中嶋委員)

今ご報告いただいた通りですけれど、あとはやっていた人の人間関係もですけど、どういう地域の方々に参加していたかということと、それからどういう地域の方々が見に来ていたか、それから巡業地域の確認、どういう地域に上演しに出かけたか、というようなことを確認しました。あとはそのルートで、どのような方法で行ったかですとか、そういったところが確認できたかと思います。

あとは、中心人物である常次郎という方の半生というか、どういう家族構成で、大体

担い手の方々が、ご夫婦とか、親子とか、そういう形でやっていらしたようなので、この中心人物になる常次郎さんという方についても何か家族の背景とか、そういうことを確認させていただけたと思います。以上です。

(大谷津委員長)

ありがとうございます。中村先生いかがですか。

(中村副委員長)

一夫さんに聞いたところによると、ほとんど最初は芝居だけやっていたという話で、あとから人形をまた復活させたような雰囲気があるようですけども、芳治さんも、この日記を見ていると、最初は芝居に加わってなくて、主に加わっているのがミチさんっていう妹さんの方が主に加わっていたみたいです。だんだんに、フキさんという人をお嫁さんにもらってから、人形芝居の方に引き込まれていって、最後の方には、芳治さんも座員の1人として加わっています。それまでは、ほとんど芳治さんがやっていた仕事は、人形の箱作り、人形作りとかそっちの方もやっていたのが、一夫さんの話の雰囲気では、だんだんに、あとでやり始めたとか、家族も巻き込んでと言ったので、やはり話と合うという気はしています。あともう1回ぐらい補足で聞いた方がよいという気はします。特に一夫さんの奥さんは元気で、倉沢出身だそうで、すごく記憶力も良い方です。この人はお芝居上手だったとか、この人の何とか、全部知っていたので、もう1回改めてお2人を入れて聞き取りした方がよいという気はしています。以上です。

(大谷津委員長)

ありがとうございました。今のことに関してご質問等ございますか。

(菊池委員)

さっきから気になってしょうがないのですが、(かんのかずおさんではなく)菅野一夫(かんのいちお)さんだと思います。どうして「かずお」になったのかわからないです。それから、この倉沢郷土誌の資料に、後ろの方に名前が載っているのですが、人形の使い手のところに「平野正雄」っていうところがあり、私は聞いたことがないです。我々の師匠が平野正さんという方です。これがおそらく平野正さんのお名前ではないかと思って見ていました。多分間違っていると思います。平野正さんというのが正解だと思います。

(中村副委員長)

川野正夫さんという方がいらっしゃいますが、多分それとごちゃごちゃになっている可能性があります。川野正夫さんですが、「せい」の字が政治「政」のときと、「正夫」

と書いたのが何回かあって、略して「ただ」と書いているのではないのでしょうか。

(菊池委員)

その隣には、ちゃんと川野正夫さんの名前載っています。

(中村副委員長)

そうですか。多分それは、ごちゃごちゃになっているのではないかと思います。

(菊池委員)

こういうことはしっかりとしないといけないと思います。「いちお」と「かずお」はちょっと違うなと思いました。

(大谷津委員長)

こういうときに言っていただくのが一番よいと思います。ありがとうございます。ご指摘等、ご意見や質問等も含めてございますでしょうか。

屋号や人名などは、事務局でよく認識して報告書のときにチェックをお願いしたいと思います。言われないとわからないですし、通常の読み方ではないです。ありがとうございました。他にございますか。

今思ったのは、聞き書きの内容というのも大事な資料ですので、それも資料編にそのまま要約して載せると良いと思いました。興味深かったのは、やはり歌舞伎をちゃんとやって、それで人形だということですね。歌舞伎がベースにあるところ、菊池さんと下林さん、どこまでそういう意識ですか、歌舞伎がちゃんとできないとやっぱ人形歌舞伎は駄目という感じですか。歌舞伎がベースですか。

(下林委員)

私達の頃は、人でやりました。それで、大体の所作を覚えました。人形にどのようにしたらよいかということで、今は人でやるっていうのは非常に難しいです。昔からビデオがありますが、それを見て所作ごとに、もう少しおおらかにやれとか、緊張したようにやれとか、いろいろそのようにやっておりました。

(大谷津委員長)

ありがとうございます。非常に興味深いお話を伺いました。他にないようでしたら、次に入りたいと思いますけれどもよろしいでしょうか。

それでは協議事項にうつりたいと思います。協議事項の(1)、調査報告書目次案および役割分担について事務局より説明をお願いいたします。

(3) 協議事項

ア 調査報告書目次（案）及び役割分担について

(小林係長)

資料は、11 ページになります。調査報告書の目次案と、役割分担案についてということです。前の調査委員会で示された章とか節については、変えておりません。執筆担当が、まだきちんと決まってないところもあるようでしたので、今までの調査も踏まえて、章と節も変わってくるのかもしれませんが、現時点での案を見ていただければと思います。

一番最初に口絵と地図がきます。こちらは事務局です。「はじめに」が教育長、目次がきて例言、凡例等が事務局で、第1章の「総説」、「人形浄瑠璃史における倉沢人形歌舞伎の位置づけ」が大谷津委員長で、10 ページほどとなっています。

それから第2章が「倉沢人形歌舞伎の伝承基盤」で、「位置、歴史的・地理的環境、生業、生活、交通、文化」は中村副委員長ですが、こちらはすでに書いていただき、5 ページの予定が10 ページぐらいになったと聞いております。

それから第3章が「倉沢人形歌舞伎のあゆみ」で、第1節「創始者菅野常次郎」、第2節「大正～昭和33年（保存会結成まで）」、第3節で「昭和34年以降」という分け方をしております。

執筆担当は、木戸口委員と、中村副委員長、中嶋委員で相談して決めたいと聞いております。こちらの日記の翻刻作業を岩手古文書学会に一部お願いしているところです。

第4章が「倉沢人形歌舞伎の現在」で、「名称、所在地、公開日、公開場所、上演演目そして伝承組織」となっております。こちらの執筆担当が松橋委員、調査担当が、中村副委員長と松橋委員と聞いております。

それから第5章「倉沢人形歌舞伎の構成要素」で、こちらが結構ボリュームがあるのかなと思います。第1節が「人形・衣装・大道具小道具・幕」で、どのぐらいあるのかとか、どのように整理するかとかです。第2節が「人形の装着」で人形の装着各部の名称、装着の仕方と特徴、第3節が「操作方法と基本の動き」で、人形の実際の動かし方とか、特徴の部分になると思っております。こちら木戸口委員、中村副委員長、中嶋委員で相談して決めたいと聞いておりますし、こちらは大谷津委員長も調査にご協力いただけると伺っております。それから、第4節の「演目に見る芸態」と第5節音楽ですが、義太夫節については寺田委員、調査担当を大谷津委員長と寺田委員にさせていただきます。

続きまして12 ページ、第5章第6節が「技芸の修得・演目の見どころ」ですけれども、伝承者へのインタビュー部分で、こちらの執筆を中嶋委員に、調査担当を中嶋委員と松橋委員とさせていただきます。

それから、第6章が「東北各地の人形芝居－倉沢人形歌舞伎の系譜」で、水押人形と

かが出てくるのかと思いますが、こちらが木戸口委員。

第7章が「まとめと今後に向けて」で、「倉沢人形歌舞伎の特色と価値」で総説と関連してというところ、それから今後に向けてというところを大谷津委員長。残りは付録で、様々な資料関係は事務局という案を書かせていただいております。あくまでも案です。この場でご協議いただいて修正等必要であれば、お願いしたいと考えております。以上になりますので、よろしくお願いいたします。

(大谷津委員長)

ご説明ありがとうございます。当初のイメージというか、現実離れた形で示したものがこれです。だんだん現実に近い形になっていると思います。少し更新をできればなと思っております。ただ最初スケジュールにありましたように、この時点でも多分まだ決定はできなく、もう少しいろいろ資料であるとか、情報が出たところで、より近い形に固められるかなと思います。秋ぐらいまでを想定しております。最初の提案がこれでしたので、私からもう一度更新したものを提案させていただいて、ご協議いただければと思います。

まず中村先生が、もう第2章を書き上げてくださったというところで、頼もしい限りなのですが、ぜひ先生、それはみんなで共有して読ませていただきたいと思います。

少し申し上げにくいのですが、もう終わってしまったということですので、もっとどんどんいろんなことをお願いせざるを得ないというふうに思っております。私の提案としては、第3章の「倉沢人形歌舞伎のあゆみ」ですが、これも仮の節分けです。この辺りは執筆者の方に適宜変えてもらってよいと思うのです。

最近「倉沢人形歌舞伎の100年」を読ませていただいて、やっぱり単体で倉沢人形歌舞伎を考えるよりは、周辺の歌舞伎環境というか歌舞伎文化ですね、土沢あたりとかそういったところに義太夫の人がいたりとか三味線の人が入ったりとか、関係者がいっぱいいる中で、これが成り立っていたということですので、周辺の歌舞伎文化のこともぜひ入れていただきたいということが私の希望というか提案でございます。それで漠然と木戸口先生にあがってしまっているのですが、中村先生と中島先生と相談をされるということで、よろしければ今の日記の関係もありますので、中村先生を中心にやっていたくのがよいと考えております。

4章の「倉沢人形歌舞伎の現在」は、事実を淡々と書くところで松橋先生にお願いする形になっております。後の方の7章のところに「今後に向けて」というのを入れておりますが、これはよく整理すると、ここの第7節がよいのではないかと。現在と今後ということですから、今後に向けて未来への展望っていうのは、この第7節に持ってきた方がよいのではないかと考えております。中身をどうするかが非常に難しいところです。展望に、架空の話を書けないので、お伺いをするとか、何かアクションを起こすとか、何か今から考えないといけないことで、難しいようだったらカットしてもよいので

はないかと思います。ここも、これから少し相談をさせていただくと思います。

第5章の「構成要素」は、これはどの人形芝居でも大体入れ込んでくるところでして、衣装であるとか人形であるとか幕であるとか用具類とあと演じ方、操作方法の基本的なところですね。ここも木戸口先生、中村先生、中嶋先生というふうに当ててしまっているのですが、ご相談いただいて。ただ、人形を測ったり、そういうことは経験しておりますし、撮影の流れとか調査の流れとか、ご助言できればと思っておりますので、調査には私も入ってやらせていただきたいと思います。原稿作成は、先生方をお願いしたいと思いますが、データ整理の部分ということになるかと思います。

ただ、ここで実際の報告書のイメージとして持っているのは、作図が必要だということです。写真も必要なのですが、写真よりもよりわかりやすくするために、大体指人形なんかの場合はイラストが入っています。尻高人形も報告書を見ていただくとわかるのですが、イラストが入っています。作図、あと舞台の正面から斜めから上からという形で、写真を撮って作図をして縮尺を入れるとかをするのです。だから、報告書を作成する段になって、それができる人を入れてこないといけないですが、そんな人がいたらご相談したいと思っています。最近、本当にイラストがいっぱい入っていますね。天津司舞の報告書をつい最近いただいたのですが、イラストレーターが調査員に入っていました。本当にイラスト専門の人に見てもらって、書かせて、とても細かい、いろんなイラストが入っていて、写真よりもポイントがクリアになるので、わかりやすいです。人形なんか特にそうです。ぜひ、そこもお考えいただけたらなと一緒にご相談させていただきたいと思っております。

あと演目に対応する芸態は、もう寺田先生に台本に沿ってどこにどう動くかっていうことは書いてもらって、演目をどうするかっていうのもちょっと相談だと思います。前回、先生方にお好きな演目を上げてもらって代表的なものを上げてもらいましたが、まだ決めきれないところがあるので、1演目なのか2演目なのかとか、倉沢人形歌舞伎を代表するような演目をちょっと選んでいきたいと思っています。

義太夫節も、寺田先生をお願いをして、あとは習得の段階とか、ここから習って、こういうふうに段階を踏んで学んでいくのだとか、基本の形をやってそれで表情をつけていくとか、そういう習得までのステップみたいなものもインタビューで聞き取れたらというところもあります。演者の側から見た見どころというか、「ここを見てほしい」というところ「演じているほうは、ここが見せどころだと思っている」というところもぜひインタビューで聞き取ってもらいたいと思っております、これは中嶋先生にお願いしているところでございます。

6章ですが、何か最初私は非常に広く考えていましたが、東北各地っていうよりは木戸口先生にいただいた岩手県博で展示をされた操り人形芝居のこれを非常に参考になりまして、人形歌舞伎の系統で、このあたりでまとめた方がよいのではないかと思います。水押や江刺の方をと思っておりますがどうですか。関係があるところや繋がりのある

るところを、網羅的に木戸口先生にまとめていただくというところで、これはもう木戸口先生しかできないと思いますので、ぜひお願いしたいと思っております。

7章に関しては、ざっくりとした表題で申し訳なかったのも、これは「倉沢形歌舞伎の特色と価値」とか、論考の部分にしたらいと思っております。今までのところは淡々と記述をしていくという流れでできていますが、ここではそこから何が今のところ考えられるのかというご意見をまとめてもらう論考編にしてもらおうと思っております。義太夫のことであるとか、この資料を基に何が言えるのかっていうようなことであるとか、広がりのあるところと言うと、木戸口先生とか先生方に各1本何か一応イメージしてもらおうとよいと思っております。

大きなところで言うと、その資料編を1章分設けるというところだと思います。資料編として後につけるのか、第8章を資料編にして、資料を載せて解説を入れることにするのか、そうすると入れかわりまして、7章にそれをして第8章が特色と価値になると思いますが、この資料編は、かなりのページ数を要しますし、おそらく1章ぐらいにはなると思っています。それを加えることを提案したいと思っております。全体のページ数であるとかそれにかかる予算とかっていうことにも関わる問題ですけども、今の構成と改定案っていうのはいかがでしょうか。ご意見がありましたら、ぜひお伺いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

資料編のことで、担当を申し上げ損ねましたけれども、そこは中村先生にやっていたく形になります。できれば、そこから1本論考というふうに考えています。ですから、特色と価値のところは大谷津ではなくて、書ける先生に全部書いていただけたらと思います。資料編は、中村先生におまかせしてよろしいですか。やっていただけますか。

(中村副委員長)

3章は、ある程度やってもよいのですが、ただ、3章をやるとしてもこの第3節というのは要らないかと思っております。なぜ、第3節が昭和34年以降になったのかわかりませんが、いらなそうと思っております。多分この3章は、常次郎さん時代の活動ということでよいと思っております。日記を見ると38年か何かで終わっていますけれども、その辺までっていうことになるのかなという気はしております。

(大谷津委員長)

保存会結成時で多分きったと思っております。ですから、この中は、執筆者の構想で変えていただいてよいと思っております。これは中村先生がやってくださるということでよろしいですか。

(中村副委員長)

資料等をどういうふうに分けるか、資料は後ろに付けるとして、その活動のまとめをその日記の中から拾って、どういう活動をしてきたのかっていうのは書けるとは思いますが。資料とどういうふうに絡めるかは、後で相談をしてやりたいなという気はします。

(大谷津委員長)

そうですね。資料でやっぱり生の資料を載せてもらって、注釈とか注を付けてもらおうと、よいと思います。

あとは解題とか解説も必要で、何帳あってとかどういう紙でとか、どんなふうにかかれていてみたいな解説ももちろん必要と思っているので資料編の最初のところはそういうことも書いてもらってというふうにしています。論考に繋げてもらえればよいと思います。

(中村副委員長)

論考になるかならないかわからないですが、この3章の常次郎さん時代はよいのですが、この歩みの中で、その後に芳治さんがまた始めたというのがくっついてないと、少しおかしいという気はします。もし入れるとすれば、芳治さんのがまた始めたあたりからの現在までのところが、ここの中に入ってこないと、歩みがここで止まってしまうとおかしいので、それで常次郎さん時代と芳治さん時代ということで分かれてもよいと思います。章立てか節立てをして、後ろにくっつけて「歩み」の中に全部入れてしまわないと、切れてまた後ろから出てくるとおかしいので、これは一緒にしてもらって歩みの中に入れてもらいたいなという気がします。後ろの項のところは、木戸口さんなりに書いてもらえればよいと思います。第3節にするのか、わかりませんが、その辺を少し考えて、この3章の中の歩みのところに、全部現在までのところを少し入れた方がよいと思います。

(大谷津委員長)

4章で現在になってくるので、現在までのところを3章に入れ込む流れが綺麗と思います。ですから、ご提案の通り、常次郎さんの時代と芳治さんの時代というふうに節に分けて、2つその前に前段階があるのかもしれないですけども、そういう形で流れを現在までの3章に入れ込むという形が非常にすっきりとしてよいと私も賛成です。木戸口先生が、芳治さん時代を書いてくださるということで、お引き受けいただけたと思ってよいでしょうか。

(木戸口委員、承諾)

(大谷津委員長)

ありがとうございます。そうしましたら、5章の構成要素の1・2・3は、どうされますかというところですが、これもデータをまとめるぐらいなのですが。

(中村副委員長)

先ほどイラストの話が出ていましたが、多分イラストを書く人を今から任命して入れるというのは難しいという気はします。今、印刷所でイラストレーターと契約していますので、そちらの方で作図してもらうことは可能なので、ある程度略図は写真を見せて書いてもらって、契約の中に最初から入れておいて、含めてイラストも書いてもらうとか、もし必要であれば、そういうふうにはできるかなと思っています。おそらく、写真を見せてそれを校正して直していただければ、印刷所では、多分契約の条項の中に入れば間に合うかなという気はします。

(大谷津委員長)

現実的にありがとうございます。今から誰がいるかと言ってもなかなか探せないのです。印刷屋さんが繋がっているのですね。

(中村副委員長)

岩手県は、そこまで大きい印刷所があるわけじゃないですが、大体イラストレーターさんとかバックの絵を書いたりする人と契約を必ず結んでいますので、最初から契約の条項の中にイラスト図を含むとか、最初から入れてあれば、その契約でイラストレーターさんをお願いして書いてもらうことはできると思います。そうであれば、イラストとかを入れることができますと思います。

(大谷津委員長)

契約に入れ込んでもらうということではいけますか。

(小林係長)

大丈夫かと思います。調査委員に入ってもらおうというよりは業務委託でお願いするのも可能かと思います。印刷会社と同じになるかは別としても、こういうのを描いてもらいたいと指示をして描いてもらうことはできると思うので、調査員を新たをお願いするよりは、仕事として委託できるのではないかと考えて聞いておりました。

あと補足させていただきますが、木戸口委員さんから、前の会議では第3章と第6章の担当と聞いており、それだけでも結構ボリュームがあるので、第5章は厳しいというお話を伺っておりました。中村副委員長や中嶋委員を中心に相談して、分担を修正していただければと思っています。

(大谷津委員長)

そう思います。お願いするところがたくさん出てきてしまうのでどうしようかというところですよ。

(中村副委員長)

これは書くというよりもまとめます。ですから、いろいろ実際にやっている方々からお話を聞いてそれをまとめて進む。考察的な執筆はいらない、実際の関係を書くので、それは写真とか撮って峰雄さんとか下林さんと、聞きながら操作の仕方とかを聞いて、それをまとめて書くということでよいので、その辺はちょっと相談して、この辺でやります。

(大谷津委員長)

この類は、私結構やってきたので、私が入ってデータまとめとかを助けてもらえれば何とかなるかなと思います。人形とか測ったりもできますし、どこのデータをどういうふうに載せるのというのも、大体想像ができますので、1人だと重いから誰か助っ人をつけてくれると大丈夫だと思います。決めていただければ、相談をさせてもらって一緒にやりたいと思います。

イラストレーターもなるべく早く決まった方がと思いますが、こんな角度でというようなところを一応サンプルとか見てもらって、こういうのが欲しいですみたいなことは、早い段階で言いたいと思っています。

橋本調査官、この前、尻高人形の報告書は文化庁で頂戴しましたが、横瀬人形は残っていますか。横瀬人形の方が、よりここに近いところがあります。

(橋本調査官)

わかりました。文化庁にもあまり報告書の在庫が多いものではないと思いますが、確認して参ります。

(大谷津委員長)

ありがとうございます。私は持っているので、なければ私が提供します。

(橋本調査官)

横瀬についてはPDFみたいな形での公開はされてないですか。

(大谷津委員長)

それは確認してないです。PDFなどで公開されていればよいかなと。あとで確認してもらってもよいですか。

(橋本調査官)

承知しました。

(大谷津委員長)

ありがとうございます。そうしましたら、他に先生方からご提案、あとはご意見等いかがでしょうか？

(松橋委員)

質問させてください。第4章で、伝承組織、今の段階の保存会のメンバーの方々のお名前を出すということになると思いますが、多分個人情報になってくるので、そのあたりの扱いをどのようにしていくのか、事務局さんの方で何かあるのかと、あと先生方の方でこれまでこうしてきたみたいなのがあれば教えていただきたいです。

(大谷津委員長)

個人情報出していますね。これからどうするかっていうところですね。今まで作ったものはバリバリ出しています。

(松橋委員)

お名前出してよいですよというような書面のやり取りとかは、どうですか。

(大谷津委員長)

確認書の取り交わしなど、行政の方の何かご指導があれば承りたいと思いますけどどうでしょうか？何か必要がありますか。

(長屋敷上席専門官)

同意書というのは、あらゆる文化財の場面で存在します。今後のことを考えると、簡単なもので良いので、あったほうがよいと個人的には思います。ただ、全国的な流れとかもあると思うので、あえて難しくするかどうかです。

(木戸口委員)

そういった個人情報レベルの話は、現在だけじゃなく、もう亡くなっているからよいというのではないような感じもします。まとめて、事務局の方で何とかやってもらえるとすごく助かるというようなところもあります。先ほどの昭和38年以降と常次郎さんが亡くなった後のその歩みも書くとなれば、おそらく今ご存命の方のお名前も入ってくると思いますし、地域名も入りますから、大方の住所もわかってくるということもあり

ますので、そういったところと、人数も多いので、何かこういうふうな形でというものを示していただいたり、まとめてそういった文章を交わすというのは難しいですが、それぞれ扱う委員がそれぞれの方々となると、重複する場合もあり、難しいという感じはいたします。

(大谷津委員長)

一律ルールを決めてということですよ。同様に対応する、そうすると肖像権とか写真とかそういうのも含まれてきますね。

(橋本文化庁調査官)

そこまで厳密にはしていないかなと思いますが、そういう手続きを踏むのであれば、この報告書を最終的にどういう範囲に配布するのかとか、公開の仕方であるとかそういうところもお伝えした上での同意を得る必要があるのかなというふうに、今お伺いして思いました。

(大谷津委員長)

そうですね、公開の範囲とか紙だけなのかとか、ネット公開しますとか。だいぶ違うところですね。でも、効果というか狙いとしてはやっぱり広く知ってもらうということが大事だから、方向性としては、誰でも見られるような形でネット公開が望ましいと思います。最近はみんなネット公開しています。だから、そこもしますけどよいですかというところかなと思います。事務局と話をさせてもらって、調査委員会でのルールを決めて、それに従って対応するというにさせていただきます。貴重な、今の本当に問題だと思いますので、他の調査報告書についても考えなくてはならないと思いました。ありがとうございます。

他にございますでしょうか？多分、これからまた少し、担当や章立ても調整も入ってくるだろうと思います。私が、ここに全然入ってなくて気になり始めたのは、歌舞伎の面です。歌舞伎の面も全然章立てというか節にもなっていないので、歌舞伎がベースであると言っているながら、歌舞伎が全然扱われてないというのもちょっと変かなと思います。そうしたら、どこにどういうふうに入れるかを考えていますが、やはり歌舞伎の研究がどこまで進んでいって何が入るのかという中身の問題で、そこを少し私は先生方にぜひ教えていただきたいと思います。

ある程度情報があるようでしたら、入れなくてはいけないなと思っています。嵐大三郎一座が巡業してきたときに加わって、美鳥さんになったとか、その前から名前あったとか、そのあたりの研究は、どの程度わかっているのでしょうか。

(木戸口委員)

研究というか、これまでのいろんな書物の中に書かれているもので終わっているとは思いますが。結局それ以上の情報というのは、もう今は知る由もないといえますか。ですので、様々なものをまとめるしかないというような感じはします。

ただそういったところについては、第3章の第1節、「創始者の常次郎」ということを含めて、どうしても触れなければいけないところにはなるのかなと思います。

あとは、第7章の第1節「倉沢人形歌舞伎の特色と価値」の特色については、やはり地歌舞伎というものも、すごく重要な部分で、そういったところと合わせた形で人形歌舞伎のほうもという形で表現できれば、そこは関連性が出てくるのかなという気がします。

(大谷津委員長)

ありがとうございます。実際に歌舞伎の衣装も残っていますし、入れてくれた資料の中にも歌舞伎の舞台の写真もあって。本の中には、常次郎さんの女形の写真みたいなものもあったりして、やっぱりそういうものも表に出して、木戸口先生がご提案くださったように、人形歌舞伎と、いわゆる歌舞伎ということで、論考のところに一つ入れて、その前段階として「歩み」のところで、常次郎さんの生活というか生き方として出てくるところと関連させてというのは一つあるかなと思いました。「興行やってみました」みたいなチラシとか新聞記事とか、昭和になってからだと新聞とかに出ているので「何々一座やってくる」とか、「何々一座興行、何々でやりました」というような、そういう情報が出てくるとさらに良くなると思います。

今後、まだ始まったばかりで、まだ時間が1～2年あるので、そこでそっちの方面の資料調査というか、資料の発掘をできればよいと思っています。夏過ぎぐらい、秋ぐらいに少しめどを立てられたらよいかなと思っています。歌舞伎の資料が、どのあたりから出てきそうかということもぜひご教示いただければありがたいと思います。漠然と考えると、新聞記事とかチラシとか、たまに家の中から出てきたりします。関東の方では人形芝居の興行のチラシとかが出てきたりするので、そういったものとかですとか、あとは転々としているから、この周辺のところも含めて、何かないかなというところは思っています。また先生方に教えをいただきながら、考えていきたいと思っています。

ありがとうございます。他に先生方から疑問点ご意見等ございましたらお願いしたいと思っています。では、協議事項の二つ目の調査の進め方およびスケジュールについて事務局よりお願いします。

イ 調査の進め方およびスケジュールについて

(小林係長)

資料は13ページの資料No.4です。今後のスケジュールについて、ただ日にちと内容

と場所を書いてあるだけですが、これからいろいろ聞き取り調査とかそれぞれの調査委員さんをお願いしますけれども、一番はこの目次の第5章、第1節から第3節に関係してくると思いますが、人形とか小道具類の撮影を進めなければならないと思っておりました。ここの日程だけでも今日決められるといいと思っております。撮影に関しては、文化財センターの学芸調査員等撮影に慣れている者もおりますので、保存会の皆様のご都合もあると思うので、協力しながら撮影日程を決めさせていただければと思っております。

聞き取り調査については、それぞれの調査委員と日程調整しながら随時相談してやっていきたいと思っております。それから調査委員会についてですけれども、今日が1回目ですが、今年度はあと2回ほど予定しております、2回目が11月頃にできたらいいかなと思っております。寺田委員さん以外の委員さんについては、任期が今年の10月末までとなっておりますし、11月23日が定期公演ですので、この前後に第2回目の調査委員会を実施できればいいのかなと考えております。最後3回目の調査委員会は、年度末の令和9年の2月ごろに一度できればと考えております。その際、大谷津先生から今年度の事業の報告みたいなことをやってはどうかという提案もいただいておりますけれども、進捗状況も見ながら、検討してまいりたいと考えております。今日のところは、写真撮影の日程と担当の方を確認させていただきたいと考えております。よろしく願いいたします。

(大谷津委員長)

ありがとうございました。報告会はこれまで他のところでやってきた中で、調査をやっているだけで、市民が知らないという状況はよろしくないのではということで、市民にこういうことをやっていて、こういう成果が出ていますということを知らせる機会を持つのが望ましいのではないかという経験を踏まえて申し上げました。望ましいとは思いますが、毎年できる成果があるかどうかというところもありますので、今年慌ててやらなくてもよいと思います。

ある程度、日記であるとか大福帳の情報がまとまったところで、来年度とか再来年度に報告会をするのも一案だと思っています。私は、今年はまだ調査に集中した方がよいと思います。少なくとも2年目の末か3年目の末でもよいと思っていますが、先生方がでしょうか。

ただ、やはり報告会は一度はやった方がよいと思います。出版に合わせて皆さんに本を読んでもくださいというのではなくて、「伝える」ということは、そういう場を設けた方がよいと思いますし、そのときに実際に倉沢人形歌舞伎を上演してもらおうと、やっぱり今後の振興に非常に良いのではないかなと思っています。あとは具体的などころですね、撮影日程はこの後でよいですか。この場にしますか。

(小林係長)

後でもよいです。

(大谷津委員長)

関係者と、打ち合わせをさせていただきたいというふうに思います。

(小林係長)

補足の説明がありました。今年度の動画の撮影も予定しておりまして、明日の谷内振興センターで公演が午前中の舞台設営から実際の公演の部分まで撮影を予定しています。11月23日の定期公演と、あとその他に練習風景とかも撮影した方がよいと思ひまして、それを1日と計3回ぐらい、動画の撮影を予定しております。日程は後で相談したいと思ひます。

それから、調査委員につきましては聞き取り調査等、調査を行った場合に報告書の方を提出いただきたいと思います。今日、紙でも様式を置いておきましたけども、後ほどメールで調査報告書のデータを皆さんにお送りしますので、調査を行った場合にはそちらを提出していただきたいと思います。それに基づいて調査事業の謝金や費用弁償を事務局で所定の基準に基づいてお支払いさせていただくという形になりますので、よろしくお願いいたします。

(大谷津委員長)

ありがとうございます。それで報告書の共有といいますか、どの項目がどんなふうに進んでいるのかとか、そういうものをやっぱり共有して動いた方がよいと思っているので共有してくださいというお願いをしておきました。もし計画などがありましたら、計画も共有していただいて、同行であるとか助言とか、お互いにしていただけるとよいと思っていますので、よろしくお願いいたします。先生方から何か御質問等ございますか。そうしましたら、協議は以上となります。事務局から何かありますか。

(小林係長)

資料を後ろの方にいろいろと置かせてもらっているのを見ていただければと思います。あとは、東北文化映像研究所の阿部さんから菅野常次郎さんの肉声の入った昔のラジオ番組の音源をいただいておりますし、中村館長から県立博物館から取り寄せた写真データや岩手日報の記事等も閲覧のみですがございますので、もし希望がありましたらお見せしたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

(大谷津委員長)

ありがとうございます。先生方にはいろいろ資料を集めていただいて本当にありがと

うございます。そういった中から DVD に落とし込むとか、あとは報告書に印刷物に入れるとか、取捨選択をしていくということになると思います。引き続きよろしくお願い致します。特に口絵写真とか、やっぱり新しいものが出てきたら、ぜひ入れたいと思いますので、できる限り集めていただければと思います。協議内容を踏まえてオブザーバーでご出席されているお二方からご意見等いただきたいと思います。まず、文化庁の橋本調査官をお願いいたします。

(橋本文化庁調査官)

皆様、本日はありがとうございました。冒頭にお話もありましたけれども、本事業は令和6年から7年まで、2年間は市の調査事業として進めていただきまして、今年度からは、いよいよ国庫補助事業としてスタートすることになりました。そのタイミングで事務局である花巻市におかれては、新たな体制で本事業を引き継いでいただくことになりまして、今日の委員会また様々な調査のご調整などご尽力くださり感謝申し上げます。

昨年度は、新たに見つかった膨大な文書資料の画像データをご共有いただいたところでひと区切りということで、今回はそこからもう着々と、それらの解説や調査をお進めいただきまして、新たにわかってきた情報なども踏まえた、より具体的な議論を大変興味深く拝聴しました。

本日の協議の中で、日記や台本の方で、人形なのか、歌舞伎なのかわからないという課題も見えてきたというお話がありましたけれども、なかなかこの判断って難しいだろうなと思うと同時に、結構大事なところでもあるのかなという気がしています。

やはり大谷津委員長のお話にもありました通り歌舞伎がベースになっているというか、その上演内容を人形に移して演じる姿勢というのが一つこの芸能の特徴であるかなと思いますので、そうしたところが今後の調査でまたわかってきたら良いなと思いますし、また、やはりそのどのように芸を習得するかという点についても、菅野一夫さんのお話でもお話ありましたし、今日も下林さんからお話ありましたし、昔と今とで、その伝承の習得方法の過程も少し変わってきているのかなという気もいたします。

事務的なところで言えば、今日のお話の中で例えば作図が必要であるとか、そういうことも上がってきました。調査が具体化する中で、必要な作業であったり予算であったりということも見えてくるとと思いますので、そうしたところを次年度の計画を立てるときに、反映していただけたらよいなというふうに思っております。また、明日の現地調査も同行させていただきますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(大谷津委員長)

ありがとうございました。そうしましたら次に岩手県教育委員会の長屋敷先生、よろしく願いたします。

(長屋敷県教委上席文化財専門員)

本日はありがとうございます。私は、4月からこの事業に携わらせていただいております。これまでも、過去の資料等は読んでこの場には来ております。中でも、4月から3ヶ月弱経ちましたが、非常によく調査含め皆様に非常に活発にやっていただいた部分もありまして、進展しているのではないかという印象を受けております。

冒頭に委員長さんが報告書についてということで伝承にプラスになること研究の資料として十分なものになるとおっしゃってございましたけれども、だいたひ今日の会議でうっすらと報告書のゴールといいましょうか、こんな感じに仕上がるんじゃないかというのがぼんやりながらも見えたかなというところでございます。

中でも、やはり無形民俗は、他の文化財とちょっと違って、人で繋がってきた物だと思います。その中で先ほど個人情報の話がありましたが、あの辺りはやはりすごく大事なところだと思います。今後残し、伝承していくという時に、誰がどのようにというところは、やはり見る方にとっては非常に大事なポイントになると思いますので、この辺りは時間がかかるかもしれませんが、解決できるように県としても支援していきたいなと思っております。何より県指定文化財だし、国の記録政策に選択されているところを考えると、やはり周りにもしっかりとお知らせして、守っていければなと思っております。本日はありがとうございます。

(大谷津委員長)

ありがとうございました。ここで、進行事務局にお返ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

(佐藤課長補佐)

大谷津委員長、長時間にわたり進行してくださり、大変ありがとうございました。また、委員の皆様もご協議いただき、ありがとうございました。5. その他になります。事務局の方からご説明をいたします。

(小林係長)

ありがとうございました。私の方から、今後のスケジュールについて確認させていただきます。今日の調査委員会はこれで終了になりますが、毎週土曜日、今日もですが夜7時半から伝承館で保存会の皆さんが練習されるので、一部調査委員の皆さんでお邪魔させていただきたいと考えております

また明日は、朝の9時頃から保存会の皆さんが谷内振興センターで舞台の設営作業に入ることでしたので、谷内振興センターで、舞台設営の作業を見せていただいたり、調査をさせていただきたいと思っております。映像も朝から撮影させていただきま

午後 2 時 40 分から倉沢人形歌舞伎の公演という予定になっております。その前に、東和東部地区のコミュニティ会議の事業で、午後 2 時 10 分から丹内山神社の雅楽の演奏もございます。以上です。

(佐藤課長補佐)

事務局からは以上となりますが、他に皆様から何かございますでしょうか。

(佐藤課長補佐)

よろしいでしょうか。

それでは、以上を持ちまして、令和 8 年度第 1 回倉沢人形歌舞伎調査委員会を閉会いたします。皆様本日は大変ありがとうございました。

引き続きお時間のある方につきましては、倉沢人形歌舞伎の DVD をご鑑賞いただければと思います。どうもお疲れ様でした。